

## 北広島議員会の若い世代に向けた取り組み 高校生と議員とのまちづくり対話集会

二〇一六年、一八歳選挙権が施行されました。北広島市内には三つの高校があり、次代を担う高校生世代が、政治に関心を持つことや、自分の住むまちの課題を解決するために大人とともにまちづくりに関わる機会として、高校生と私たち議員が意見交換する企画を、市民ネットワーク北海道をはじめ数名の賛同議員とともに議員協議会で提案しました。

北広島市議会としての公式活動には当てはまらないなどの異議・意見等ありましたが、新たに完成した市役所新庁舎と新議場に高校生を招待する好機であることや、お茶代等の経費を議員会から支出することなども相談した結果、「議員会主催、参加は任意」とすることで合意しました。こうして定数二二名のうち、全会派から半数超の議員が参加し、二〇一七年に一回目、二〇一八年に二回目を開催しました。

市内の高校（公立二・私立一）を訪問し、各校一〇名程度の参加集約をお願いしたところ、どの高校も好意的で各回とも二五〜二八名の参加がありました。当日受付後、まず高校生全員を議場の議席、理事者席に着席してもらい、二元代表制をはじめとする議会のしくみと、立候補の条件、議員定数と報酬、政務活動費等についてお話ししました。その様子は、議場のカメラを通してモニター

で上映、集合写真も撮影するなど議場を体験していただきました。

その後、ワークショップ会場へ移動。高校・学生・性別など偏らないようにグループを分け、議員も二名程度ずつ各グループに入りました。雰囲気づくりに、各テーブルに飲み物とお菓子を用意。出された意見等を記録する模造紙とマジックも配置。昨年九月開催時の対話テーマは、①一八歳からの選挙に向けて、政治に何を期待しますか？②こんなまちなら住みたい！そのために必要なもの、しくみは？でした。議員は進行役に専念して高校生の発言を促しました。発言内容は模造紙に文字やイラストで書きとめ、最後に全グループで発表しました。

私のグループで、日頃の社会情報の収集手段について質問したところ、スマホ世代と思いきや、予想外にほとんどの生徒がテレビのニュースやワイドショーを見ているとのこと。また、国会中継で居眠りをしている議員への苦言や自分の一票で社会が変えられるとは思えないなど、政治に対しての感想も率直に話してくれました。北広島の未来を含め若い世代が魅力を感じるまちづくりについて、高校生ならではのアイデアや、しっかりと考えた方を改めて知る有意義な時間でした。終了後のアンケートには、「普段は話し合わな

いような政治やまちのことを話せて、他の人はどう考えているのかも聞けてためになったし興味があった」「政治を担う大人の一人になる意識を改めて持てた」等々、素直な感想が寄せられました。ねらい以上の成果があったことを、参加した議員は十分理解したと思います。集会に参加した高校生は、北広島市外からの通学生がほとんどでしたが、今後は市内在住の高校生に向けて呼びかける企画についても、参加議員と共有しました。

議員会主催とはいえ初めての取り組みなので、一回目の開催時には、北海道新聞の取材を受け地域の情報紙面に掲載されました。二回目は、地域のNPO団体による取材撮影と動画配信について合意することができ、約一カ月後にYouTubeで配信されました。しかし、この企画は議会の公式企画ではないため、定例発行の議会だよりには掲載されません。議員の任意参加（議員個人）の活動のため、公共施設掲示板での周知ポスター等の掲示もできません。今期の議員で合意開催した企画なので継続開催が未定、改選後のメンバーによつては開催なしもあり得るということです。

当市議会の議会改革はなかなか進展しませんが、改革項目になかった高校生との対話集会は、一八歳選挙権施行など社会状況が変わるタイミングを機に、全会派で合意し開催することができました。集会に参加した高校生からは、「これから開催してほしい」という期待の声が多く寄せられました。次代を担う高校生や中学生世代に、議会や政治に目を向けてもらうための取り組みは、現職議員の大切な役目であり、次期以降も継続していかなければなりません。

ハつるや きとみ 北広島市議会議員／市民ネットワーク北海道V